

➤ 13日 火曜

哀歌



3:55 「【主】よ、私は御名を呼びました。
穴の深みから。
3:56 あなたは私の声を聞かれました。私のうめき声に、私の叫びに、耳を閉ざさないでください。
3:57 私があなたを呼び求めると、あなたは近づき、『恐れるな』と言われました。
3:58 主よ。あなたは私のたましいの訴えを取り上げ、私のいのちを贖ってくださいました。
3:59 【主】よ。あなたは、私が虐げられるのをご覧になりました。どうか、私の訴えを正しくさばいてください。
3:60 あなたは、私に対する彼らの復讐を、彼らの企みのすべてをご覧になりました。
3:61 【主】よ。あなたは、私に対する彼らのそしりを、彼らの企みのすべてを聞かれました。
3:62 私に向かい立つ者たちの唇と嘲りが、一日中、私に向けられています。
3:63 彼らの起き伏しに目を留めてください。私は彼らのからかいの歌となっています。
3:64 【主】よ。彼らの手のわざに応じて、彼らに報復し、
3:65 彼らの心に覆いをかけ、彼らに、あなたののろいを下してください。
3:66 御怒りをもって彼らを追い、【主】の天の下から根絶やしにしてください。」

この箇所には「主よ」ということばが多く見受けられます。これこそが哀歌にある希望です。エルサレムが包囲されてから陥落するまでの絶望的な悲惨を記す預言者ですが、それは単に嘆きだけにとどまらず、主に向くところから始まる希望に至るのです。ここではまだ希望が見えない状態かもしれません。

「主よ」というのも、苦し紛れの叫びのようなものかもしれません。しかし主を呼ぶというのは祈りであって、他の何物でもなく主に頼る思いの表れです。

私たちも信仰の祈りとは言えないような、ただうめきのような叫びがあるかもしれません。そのようなときも「主よ」と、どんなことばでも良いですから、主に向きましょう。そのような苦難のときでなくとも、日常的に主に向くことから始めましょう。そうすることで、取り乱すような時でも主に向くことができるでしょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

